

平成 21 年度 安城市自主防災組織活性化事業 報告書



[主催]
安城市

[企画・運営]
安城市社会福祉協議会
特定非営利活動法人レスキューストックヤード

目次

第1章 事業の概要	3
1 目的	3
2 対象	3
3 日程と事業概要	3
4 事業実施体制	4
第2章 事業内容	5
1 事業推進委員会の開催	5
2 防災意識向上のための防災講演会の開催	8
3 防災訓練と避難所体験の実施	9
4 3カ年の成果と今後の課題のまとめ	14
5 成果報告会の開催	15
第3章 事業全体の振り返りと成果・今後の課題	22

第1章 目的・対象・日程と事業の概要等

1 目的

東海・東南海地震などの巨大地震の発生が危惧されている。安城市でも最大震度6強が予測され、事前の備えで少しでも被害を軽減することが求められている。こうした現状の中、安城市では一昨年度より本事業を実施し、2つのモデル的地域で大きな成果を得た。いずれも単に訓練等を実施したにとどまらず、住民自身の気づき・やる気を喚起し、「自らの地域は自らで守る」といった意識と行動に変化が見られたことが特筆すべき点である。

本事業の最終年となる平成21年度は、この効果をさらに伸ばしながら、築20年を超える大規模マンションであるコープ野村と今池町内会地域の事情にあった企画を考慮し開催する。またこれまでの取り組みの集大成として位置づけ、3カ年の成果報告会を実施する。

2 対象

安城市コープ野村新安城入居者および今池町内会、その他、周辺の住民等で希望のあった方

3 日程と事業概要

(1) 事業推進委員会の開催

	年月(曜)	時間	概要	場所
1	2009年 6月22日(月)	19:00~20:30	事業実施に当たり当該住民(役員等)に対する説明会を開催	今池町 公民館
2	8月26日(水)	19:00~20:30	防災訓練・避難所体験に関するワークショップ	今池町 公民館
3	9月29日(火)	19:00~20:30	防災訓練・避難所体験のプラン決定	今池町 公民館
4	10月20日 (火)	19:00~20:30	防災訓練・避難所体験の最終打ち合わせ	今池町 公民館
5	2010年 1月8日(金)	19:00~20:30	防災訓練の振り返りと避難所講演会で聞きたい内容について	今池町 公民館

(2) 防災意識向上のための防災講演会の開催

	年月(曜)	時間	概要	場所
1	2009年 7月25日(土)	19:00~20:30	防災講演会開催 福和伸夫教授(名古屋大学大学院)による巨大地震で予測される被害の実態に関する内容	今池町 公民館

(3) 防災訓練と避難所体験の実施

	年月 (曜)	時間	概要	場所
1	2009年 10月31日 (土)～11月 1日(日)	13:00～16:00 18:00～9:00	高層マンション対応、参加・体験型の防災訓練と1泊2日の避難所体験開催	今池小学校体育館
2	2010年 2月7日(土)	19:00～20:30	避難所体験の中止に伴う、RSY栗田による避難所の実態に関する講演会を開催	今池町公民館

(4) 3ヵ年の成果と今後の課題のまとめ

	年月 (曜)	時間	概要	場所
1	2009年 11月30日 (月)	19:00～20:30	代表者会議の開催 ・各地域の取り組み発表・共有 ・成果報告会の内容決定	安城市民会館
2	2010年 1月29日(金)	13:30～15:00 19:00～20:30	成果報告会打ち合わせ会 ・基調報告について ・パネルディスカッションについて	市役所及び安城市文化センター

(5) 成果報告会の開催

	年月	時間	概要	場所
1	2010年 3月6日(土)	13:00～16:00	本事業3ヵ年の成果報告会の開催 3地域の代表者によるシンポジウム形式の報告と福和伸夫教授(名古屋大学大学院)による基調講演	安城市文化センター

4 事業実施体制

(1) 主催

安城市(市民生活部防災課)

〒446-8501 安城市桜町18番23号

TEL:0566-76-1111(内線2293) FAX:0566-76-1112 E-mail: bosai@city.anjo.aichi.jp

(2) 企画・運営

社会福祉法人安城市社会福祉協議会

〒446-0046 愛知県安城市赤松町大北78-4 社会福祉会館内

TEL:0566-77-2941 FAX:0566-73-0437 E-mail: syakyo@city.anjo.aichi.jp

特定非営利活動法人レスキューストックヤード

〒461-0001 名古屋市東区泉1-13-34 名建協2F

TEL:052-253-7550 FAX:052-253-7552 E-mail: info@rsy-nagoya.com

第2章 事業内容

1 事業推進委員会の開催

(1) 第1回事業推進委員会

■日時：2009年6月22日（月）19:00～20:30

■場所：今池町公民館

■参加：29名

■内容：

(ア) 推進委員等の紹介（2007、2008年度の取り組み紹介を含む。）

(イ) 7月25日防災講演会の参加者募集について

(ウ) 避難所体験について

(エ) 意見交換

○ コープ野村

- ・ 新潟中越の被災地で、スーパーが商品を地元開放しているのを見た。その後、そのスーパーは地元の信頼を得て繁盛しているらしい。
- ・ ペットを飼っているのが心配。
- ・ 今回の企画は、子ども達の役に立つようなものにしたい。
- ・ 小学校の運動場からC棟とD棟がよく見える。はしご車はそこで見せるのが良い。
- ・ コープ野村は頑丈にできているはず。建物のことよりも、ライフラインが止まった時の対処法が知りたい。
- ・ 給水車から給水する体験をしてみたい。

○ 今池町内会

- ・ 高齢化が進行して、一人暮らしが多い。民生委員だけの対応は難しい。
- ・ 煙体験を入れてほしい。
- ・ いい年だがこれまで大地震の経験がない。「不安もピンと来ない」
- ・ 外国人（インドネシア、パキスタン等イスラム系）住民が多い。
- ・ 町内会に入っていない家庭もかなりある。地区全体に取り組みを持っていくのにどうすればよいかわからない。
- ・ 子ども達に夜の暗さを体験させたい。
- ・ 10年経つとマンションごと介護センターになっちゃうよ、と冗談を言っている。高齢化に突入する羅針盤がほしい。

(2) 第2回事業推進委員会

■日時：2009年8月26日（水）19:00～20:30

■場所：今池町公民館

■参加：27名

■内容：

(ア) 防災訓練・避難所体験についてのワークショップ（メニュー考案）

(イ) 意見交換

○ 防災訓練

- ・ きちんと家具転倒防止対策のできている住宅を「モデルルーム」として公開する。家具止めの写真をたくみ設計に展示してもらう。
- ・ 家具が倒れたグチャグチャの部屋のモデルを作ってそこから逃げ出す訓練をする。
- ・ 上層階に大きな老犬を飼っている家がある。きっと自力では降りられない。要援護犬の避難訓

練も実施する。

- ・水消火器は、RSYのカエルの的を使用して子ども用のイベントにする。
 - ・他、子ども用のイベントとして、大声コンテスト、参加賞、紙工作（安城市防災課）
 - ・今池町内会と、コープ野村の地域をフォローしているのは、「今村地区消防団」。しかし、誰もその存在を知らないなので、ぜひこの機会にお出まじいただく。
 - ・13階最上階から家具の下敷きになっている人を助け出し八千代病院まではこぶ！！（最初から最後までやってみる）
- 避難所体験（避難所で起こりそうな問題）
- ・停電して真っ暗になったら、どうしたらよいか。→今池町内会の備蓄品の中に、ポータブル蛍光灯があるので、それを灯してみる。（by 会長）
 - ・避難所がいっぱいで入れない人がいるが、どうするか。
 - ・ペットを連れてきた人がいるがどうするか。
 - ・避難所までたどりつけない一人暮らしのお年寄りがいるがどうするか。
 - ・避難場所がわからない外国人がいるがどうするか。
 - ・車の中で避難生活をしている人に食物、配給をどうするか？

（3） 第3回事業推進委員会

■日時：2009年9月29日（火）19:00～20:30

■場所：今池町公民館

■参加：26名

■内容：

（ア）防災訓練・避難所体験について（プランの決定）

（イ）意見交換

- ・安城市から、新型インフルエンザが猛威をふるっており、避難所体験の実施については経過を見たいとの報告があった。実施の最終決定は次回の推進委員会に持ち越された。

（4） 第4回事業推進委員会

■日時：2009年10月20日（火）19:00～20:30

■場所：今池町公民館

■参加：27名

■内容：

（ア）防災訓練・避難所体験について（最終打ち合わせと役割分担）

（イ）意見交換

- ・新型インフルエンザの流行で今池小学校でも学級閉鎖が相次いでいる状況から、避難所体験の実施はやむを得ず見送ることが決定された。防災訓練は企画通り実施することも決めた。

（5） 第5回事業推進委員会

■日時：2010年1月8日（金）19:00～20:30

■場所：今池町公民館

■参加：21名

■内容：

（ア）グループ協議（テーマは「防災訓練の振り返り。良かった点と改善すべき点」・「避難所講演会で聞きたいこと」）

（イ）意見交換

- 防災訓練「良かった点」

- ・ 大がかりの訓練は初めての体験であった、勉強になった
- ・ なまず体験ですごく良かった
- ・ いろいろなコーナーに分かれていて分かりやすかった
- ・ 日頃から疑問に思っていたことを専門の方に聞いたこと。(家具転倒防止)
- ・ はしご車、地震体験、照明車などを間近で見られてよかった
- ・ 布製タンカなど新しい避難物品を知ることができた。→乗り心地よかった。運ぶのに必死すぎた→何日かやっていたら。息を合わすのがムズカシイ…。重いし…。5階からでも…。幅も狭い…。
- ・ 消防団の方に来て頂けた。
- ・ 訓練後にガスボンベ(コンロ)を備えた。
- ・ 訓練を機会に非常持出袋を用意できた。
- 防災訓練「改善すべき点」
 - ・ 係をやっている(なまず号)防災訓練で他の訓練をやっているところが見られなかった。
 - ・ 途中からバラバラになったような気がする
 - ・ もっと臨場感のある訓練ができると良いと思う
 - ・ マンションの高層住宅に住まいの人以外の住宅についてもやって欲しかった
 - ・ 朝の参加者を誘導員にしたら多かったが、車などで拡声器を使って声掛けすれば…
 - ・ B棟にいたけど聞こえない→災害時も気づけないか
 - ・ C棟だからできたことがある
 - ・ 各ブースをスタンプラリー形式で回る様にしておけば、どのブースにも参加していただけたのではなかったか?
- 「避難所講演会」で聞きたいこと
 - ・ トイレの数が少ないのでどのようにしているのか
 - ・ ペット、エサ、トイレ
 - ・ 3日目以降長期の避難所の様子
 - ・ 避難所の防寒対策はどうなってますか(フuton、寝具、ストーブ、エアコンなど)
 - ・ 高齢者や病人の避難はどのような状態ですか
 - ・ 子どもたちが避難所の退屈さに耐えられるか
 - ・ 家具の転倒防止について詳しく知りたい
 - ・ 夜寝られるのかどうか



事業推進委員会でのワークショップの様子

2 防災意識向上のための防災講演会の開催

(1) 防災講演会

■日時：2009年7月25日（土）19:00～20:30

■場所：今池町公民館

■講師：福和伸夫氏（名古屋大学大学院教授）

■演題「来るべき大地震に備える」

■参加：106名

■講演録

○ 講演概要

- ・ 今の5、60代の方は最も幸せな世代で、戦争にも遭わず、ずっと豊かになってきた。この子（会場の男の子）が大人になる頃には、東海・東南海地震は必ず来る。
- ・ 火葬場・病院（外科医）・消防士が圧倒的に足りなくなる。愛知県だけで1日に亡くなるのは100～150人だが、地震後その10倍以上の方が亡くなる。消防士は1000人に一人の割合。
- ・ 「今池町」という名前からすると、液状化するかもしれない。
- ・ この被害から命を守るためには、家具を止めなきゃいけないことはわかっているが皆さん留めていない。なぜか？留めないことがどんなに怖いかわかっていないか、必死で説得してくれる人がいない。
- ・ 前回の東南海地震は名古屋の爆撃の一日前だった。その際地盤が悪い、ゼロ戦工場、半田の海軍飛行機工場が壊れたが、日本軍は隠し、米国はそれを報道した。
- ・ 実は似た様な事が、神戸の地震以降起きている。こういったことを勉強していたら、生き方も住まい方も違うだろう。それを我々はし損なったのではないか。
- ・ 昔からある土地には教訓が残っているので、今池でも一度そういうことを調べたらよい。
- ・ 東京では建設会社、金融機関、マスコミ本社がよく揺れる場所に建っている。知らないのは皆さんだけではない。
- ・ 尾張は川だらけ。七里の渡しがあったのは川だらけで渡れなかったから。名古屋駅の前は沼だったが今超高層ビルが建っている。
- ・ 地震が起こらなかった今まではラッキーだったということ。但しこれからはちょっと考えなくてはいけない。
- ・ 法律を守ると国が補償してくれていると勘違いしている。法律は最低限のことを書いているだけ。
- ・ 答えは単純。昔とは揺れ方が違うから、家具を止めてください。それだけ。
- ・ 電気は止まるから、マンションの上のほうには各階に一つ備蓄を。そしてみなさんのお子さん、お孫さんにはサンズイのつくような場所に住まないようにと伝えてほしい。
- ・ 私は今、笛となまずの神様を下げている。こうした自慢話大会をすることでも、より安全な今池町になる。いくら揺れても負けないような準備をしておけば、まったく恐れる必要ない。行政の人は、今は役に立つが、いざというときには頼れないことを知っておいて欲しい。

○ 質疑応答

- ・ 地震と洪水は同時に来ないのか？
1948年の福井地震のときは1ヵ月後に九頭竜川の大洪水があった。福井はその1年前に戦争も経験した。山あいは地震で起きた山崩れが川をせき止めて、土石流が襲う。中越地震は豪雨災害のボランティアに行っていたところに中越地震が起きた。大いに関係がある。
- ・ 我々のマンションは安心か？
施工はしっかりしているはず。崩壊はしないが、修繕は必要になるかもしれない。集合住宅で

心配なのは、全員が合意しないと立て替えたりできないこと。住民の年代が違くと合意が取りにくい。修繕費を十分に用意し、若い人は水を運び、逆に今、お年を召した方は、若い方に知恵を出したりすると、マンション全体として平時と非常時の助け合いができる。

・ 猿投高浜断層の地震についての恐れは？

東海・東南海地震は 100 年に一度確実に来る。猿投境川断層系は、何千年に一度、来るかもしれないという範囲。また、外から助けに来る。神戸の震災は 300 万人が被災。東海東南海は 4,500 万人。備え方が違うと思う。



講演をする福和氏



会場に満員の聴衆

3 防災訓練と避難所体験の実施 <避難所体験は中止のため、防災訓練のみ実施。避難所体験の要項については添付資料の要項を参照>

(1) 「参加・体験型」防災訓練

■日時：2009年10月31日（土）13:00～16:00

■場所：安城市立今池小学校体育館・グラウンド、コープ野村

■協力：野村リビングサポート、三菱エレベーター、御幸町内会、安城防災ネット、今村地区消防団、防災ボラネット守山

■参加：今池町内会・コープ野村住民 183 名

■プログラム：

※関係者集合 10:00／各担当に分かれて準備

時間	内容	備考
13:00～13:10	オープニングセレモニー	安城市・コープ野村から挨拶
13:10～15:50	下記参照（※地元を主体として、市や社協、関係機関、NPO・ボランティアが全面的にサポートする。）	
15:50～16:00	閉会の挨拶	安城市社協・今池町内会から挨拶

■訓練メニュー ※（ ）は担当

1. はしご車体験（消防署・コープ2名（見学者誘導））13:10／以降1時間グラウンドで展示

【概要】 マンション高層階からはしご車で救助される。その様子を参加者が見守る（見学は学校側の歩道）。訓練後は小学校グラウンドに移動させ、見学ができる。

【対象】 2名（体験したい方をマンション側が選定）。



2. 避難はしご体験（担当：野村リビングサポート・コープ5名）13:45・14:15・14:45

【概要】 ベランダ設置の非常用はしごを実際に使用し5階から地上まで降りる。

【対象】 1回につき数名程度。見学希望者は道路側で見守り、管理会社から使用方法についてのガイダンスを受ける。



3. 非常用階段での避難体験 (RSY・御幸町内会・住民：1名、コープ4名) 13:45・14:00・14:30

【概要】マンションの非常用階段を使用し、5階・7階から階下へ担架(布製2台を御幸町内会から借用)で負傷者等を搬送する。また1階からは階上へ給水袋(10ℓ)等を運ぶ。

【対象】担架は1回につき7名程度。給水袋は1回につき3名程度。



4. エレベーター緊急措置体験 (野村リビングサポート・三菱エレベーター・住民:1名、コープ2名) 13:45・14:15・14:45

【概要】エレベーター内で地震が発生したことを想定。緊急時にエレベーターがどう動くかについて説明を受け、また閉じ込められた場合に助けを呼ぶ等の必要な措置を考える。

【対象】1回につき5名程度。



5. 起震車体験 (安城市・住民:今池3名) 随時

【概要】愛知県「なまず号」で地震を体験する。【対象】1回につき4名。随時



6. 消火器体験（今村地区消防団(5名以上)、安城市) 随時

【概要】水消火器を使い、使用方法を体験する。的はRSY所有のカエル。

【対象】1回につき10名程度。人の集まり具合により適宜実施。放水体験も実施。



7. 仕切り板の破壊体験（御幸町内会・社協・今池町内会2名）14:30・15:00・15:30の3回

【概要】ベランダ設置の仕切り板(3台)を破る体験をする。

【対象】1回につき10名程度。



8. 自主防災組織の紹介/テント展示（今池町内会・コープ野村）随時

【概要】地元町内会や自主防を紹介したパネル展示や防災倉庫内資機材の紹介等。

【対象】自由見学



9. 安城防災ネットによる啓発資料の紹介／テント展示（安城防災ネット） 随時

【概要】 あいち防災リーダー会が所有する各種展示物（簡易トイレ、非常持ち出し品、防災ベスト、防災ずきん、転倒防止関連）の紹介等。



10.家具転倒防止の啓発（被災世帯の写真と相談等）／パネル展示（防災ボラネット守山） 随時

【概要】 過去の災害で被災した家屋室内の写真展示と、家具転倒防止を地域で実践されている災害ボランティアが転倒防止のコツや各種相談に応じる。



11.子ども対象企画. 大声コンテスト・紙工作（RSY・住民:1名・今池町内会 2名、コープ 2名） 随時

【概要】 「火事だー」などの大声を騒音測定器のマイクに向かって叫び、数値の高低を競いながら楽しく防災を学ぶ。また、紙ぶるるや消防車クラフトの紙工作を自由を楽しむスペースを設ける。

【対象】 子ども



(2) 避難所講演会

■日時：2010年2月7日（土）19:00～20:30

■場所：今池町公民館

■講師：栗田暢之（特定非営利活動法人レスキューストックヤード代表理事）

■演題「避難所の実態について」

■参加：42名

■講演録

○講演概要

阪神・淡路大震災や新潟県中越地震などで実際に避難所での被災者支援活動に携わった経験をもとに、映像や被災者の生の声を紹介しながら、今後の避難所における課題を概観した。

- ・ 想像以上に過酷な環境（狭い、プライバシーがない、暑さ・寒さ対策がほとんどないなど）
- ・ 食事は弁当が支給されるが、それを待つだけではなく、避難者の工夫やボランティアの協力で炊き出しなどを実施して、バランスの良い温かい食事をとることができた避難所もあった。
- ・ トイレについては、避難者のマナー向上と要援護者等への配慮がより必要になる。
- ・ 震災関連死を防がなければならない。原因は心不全や肺炎が多く、特に高齢者を直撃した。
- ・ こうした状況を少しでも改善するためには、コミュニティの普段からの支え合いが不可欠。



4 3カ年の成果と今後の課題のまとめ

(1) 代表者会議

■日時：2009年11月30日（月）19:00～20:30

■場所：安城市民会館

■参加：14名

■内容：

(ア) 参加者自己紹介

(イ) 「3カ年の成果報告会」の開催について

(ウ) 今後の予定

(2) 成果報告会打ち合わせ会議

■日時：2010年1月29日（金）13:30～15:00、19:00～21:00

■場所：安城市文化センター

■参加：13名

■内容：

(ア) 13:30～15:00 基調報告打ち合わせ

(イ) 19:00～21:00 パネルディスカッション打ち合わせ

5 成果報告会の開催

(1) 3カ年成果報告会

■目的：

本事業は、平成19年度「箕輪町内会+ガーデンヒルズ等」、平成20年度「横山町内会」、平成21年度「今池町内会+コープ野村」をモデル地区とし、主にマンション住民と周辺自治会との協力的体制づくりやそれぞれの住民自身の防災対策の強化と自主防災活動の活性化を目的に実施してきた。そこで、3カ年の実践から生まれた成果や新たに見えてきた課題等を報告し合い、今後ますます災害に強い地域をめざすために実施する。

■日時：2010年3月6日（土）13:00～16:00

■場所：安城市文化センター3階大会議室

■参加：約130名

■プログラム：

時間	内容	講師等
13:00～13:05	開会の挨拶	鳥居玄根氏（安城市自主防災組織連絡会会長） 神谷和也（安城市副市長）
13:05～13:45	報告①「3カ年の事業概要」	吉村了子（安城市社会福祉協議会） 松田曜子（NPO法人レスキューストックヤード） ゲスト：横山晃代（マンション・ママ代表）
13:45～13:50	休憩（場面転換）	
13:50～14:50	報告②「各年の成果と課題」	パネリスト ○H19年度 加藤勝美氏（箕輪町内会会長） 岩井賢氏（ガーデンヒルズ三河安城駅前管理組合理事長） ○H20年度 都築直之氏（横山町内会前会長） 近藤克也氏（ライオンズマンション安城横山管理組合理事長） ○H21年度 岡本章氏（今池町内会会長） 岩田好充氏（コープ野村新安城自治会会長） ○コーディネーター：RSY・栗田暢之
14:50～15:00	休憩（場面転換）	
15:00～15:55	基調講演「さらに災害に強い地域をめざして」	福和伸夫（名古屋大学大学院教授）
15:55～16:00	閉会の挨拶	伊吹満喜男（安城市社会福祉協議会事務局長）

■ 発言・講演録概要

○ 挨拶／鳥居玄根氏（安城市自主防災組織連絡会会長）

安城市では 20 年前からマンションが増えてきた。それに伴い、既存の自主防災会に収まらない高層マンション住民の防災力をどう高めるか、という問題について市が問題意識を持ち、3 年前にこの事業が始まった。今日はその総まとめのシンポジウムである。本事業に参加して見えた方の色々な意見を聞いて勉強してほしい。

○ 挨拶／神谷和也氏（安城市副市長）

安城市には 10 階以上のビルが 92 棟、15 階以上が 19 棟、20 階以上が 4 棟ある。消防署のはしご車は最高で 45m、つまり 15 階までしか届かない。それ以上にお住まいの方は、安城市からなんら救済の手が届かないことになる。

そこで大事なのがコミュニティ。同じ建物に住んでいる人たちが協力すれば 20 階に住んでいる人たちも 15 階まで降りてきて助けられる。

それから、高層マンションに住んでおられる方はできれば 1 日 1 回、みんなで 1 階から屋上まで歩くこととお勧めしたい。2 階に行くのでもエレベーターなら上まで上がるのがどれだけしんどいことかわからない。今から、介護予防を兼ねて、雑談しながらあるけば足腰が強くなるだろう。

○ 基調報告／吉村了子氏（安城市社会福祉協議会）・松田曜子氏（NPO 法人レスキューストックヤード）・〈ゲスト〉横山晃代氏（三河安城駅前マンションママ代表）

松田・吉村 まず、この事業が始まった経緯を説明する。もともと、高層マンションが増えた安城市で、防災意識がマンションに向けられたのがきっかけ。また、先進的な地域で取り組みがなされていた。安城市は地域で草の根のネットワークを持つ社協に業務を依頼し、社協は防災の NPO である RSY に委託した。これに住民も加えた 4 者の連携のもとにこの事業は取り組まれた。

各年度ごとの事業の詳細については、配布資料と後ろのパネル展示を参照頂きたい。

2007 年度は箕輪町内会と三河安城の新しいマンション群で福和先生の講演、防災訓練の事業を行った。防災訓練の場は地域の方とマンション住民の交流の場となり、マンション・ママという新しい団体も生まれた。マンション・ママについてはあとで横山さんに補足していただく。

2008 年度は戸建て住宅とマンションが混在する横山町内会で事業を行った。横山は既に企画委員会という活発な活動を行う組織が町内にあり、すでに企画されていたマンションの訓練と合同で行うことにした。9 月に実施した防災訓練を皮切りに、「10 カ条」を作成した。

2009 年度は、安城でも最大規模のマンション群であり、築年数も経過しているコープ野村新城と今池町内会で事業を行った。ここでも地域とマンションが出会う場ができた。残念ながら新型インフルエンザの影響で避難所体験が中止となり、代わりに避難所講演会が開催された。

3 年間の実践から高層住宅独特の課題に対応した訓練のメニューが確立されてきた。また、マンションと言っても築年数や形態によって異なる課題があることがわかった。今回の取り組みでは御幸町内会など他の町内会の協力も重要となった。後の裏話は、パネルディスカッションを楽しみにしていただきたい。

ここで、2007 年度の事業後に、三河安城地域で生まれたマンション・ママというグループがある。マンション・ママについて、代表の横山さんにお話していただきたい。

横山 この事業で、福和先生のお話を聞いて、とにかく何かしなきゃと思って始まったのがマンション・ママのグループ。今は 14 名の会員が活動して、最初は防災から始まったが、今は防犯や交流の目的も兼ねている。最初は手弁当で通信を配るなどの活動をしていたが、それも限界となり、安城市社協さんの市民活動団体助成に応募し、助成金を頂くことができた。助成金のおか

げで、小さいお子さんのためのけがの手当てを学ぶ講習会を開くなど、活動も充実してきた。

また、マンション・ママのグループができたおかげで、箕輪町内会からも防災訓練や運動会などに誘っていただき、距離を縮めることができた。マンション住民のなかにも、町内会に加入する人が出てきた。

会の中には、しっかり防災をやりたい人、堅苦しくないものを目指したい人など、色々な考えの方がみえるが、みなさんの意見を聞きながら活動を進めていきたい。

○ パネルディスカッション／加藤勝美氏（箕輪町内会会長）・岩井賢氏（ガーデンヒルズ三河安城駅前管理組合理事長）・都築直之氏（横山町内会前会長）・近藤克也氏（ライオンズマンション安城横山管理組合理事長）・岡本章氏（今池町内会会長）・岩田好充氏（コープ野村新安城自治会会長）

<コーディネーター>栗田暢之（NPO 法人レスキューストックヤード代表理事）

栗田 女性に負けずにいきたい。市の8割弱が6弱、14%が6強の地域。いつ来るかわからない。安城市に被害が出るのが明らか。そのような状況の下、この事業は市長の発想により3年前に事業を開始した。この事業の思いは、ぜひ安城市だけでなく愛知県全体に広めていきたい。いいことだけでなく、課題も聞いていきたい。

加藤 我々も接点がなくて困っていた。防災訓練は突破口となり、マンションママグループである横山さんたちとも知り合いになれた。その結果、町内の防災訓練にも参加していただいた。まだまだ一つのマンションでの加入率は低いが、少しずつ町内会に入ってもらいたい。理想は1棟まるごと。

最初の防災訓練の前日、箕輪の昔で言う婦人会、今は女性連絡員さんたちと、マンションのお母さん方とが、一緒に豚汁の野菜を準備していた。女性連絡員のみなさんが、自分の畑で作っているものを持ってきたところ、その野菜がすばらしい、マンションの方々も自分達で野菜を作りたいということで畑をレジャー農園として使っていただくことになった。良い畑が納税猶予を受けているためまだ実現できていないが、22年度後半を目指して何とかしたい。

栗田 だれかとだれかをつなぐにはつなぐ人が必要だが、19年度はそこを西部地区社協の若林さんが務めた。

若林 本番の前に交流ができるような場所づくりのために前の日の野菜の準備を一緒にやったことが功を奏した。

栗田 岩井さんは管理組合の理事長としてご尽力された。

岩井 マンションの理事長は輪番でやるなら私がやるといって6期務めている。当時マンションは防災訓練のノウハウも費用もなかったので声がかかったときはチャンスだと思った。町内会に加入するきっかけにもなると思った。

栗田 メニューづくりで苦労されたことは？

岩井 ベランダ共有部で避難はしごを使う訓練では、個人宅に入らないとはしごが使えないので、住民の合意をとる必要があった。私が何度も電話してご理解とご協力を得た。使う機会がない避難はしごを使ったのは有意義だった。

栗田 はい。マンションは意識が低いと先入観で思ってしまいがちだが、訓練を通じこんなに関心がある方がいるということに気づき、交流の場が生まれていった。先入観でものを見てはいけない。横山の前会長の都築さん、お願いします。

都築 私は少し違った目で成果を報告したい。横山町内会は大きく、2,800世帯に迫る勢い。町内会に入っているのは1,700世帯位で大きさがネックになっている。但しマンションも町内会に入っている。もともと、防災訓練を高層マンションでやろうという話がでていた。

これまで大規模な訓練もしていたが、何も残っていなかった。今回の事業では、防災訓練終了

後成果である 10 カ条をまとめるまでに 3 回委員会を開いた。10 カ条のための意見は、80 項目もだされ、中には「食べられる野草のマップを作ろう」なんてものもあった。絵も自分達でつくり、達成したら張る OK シールもつくった。なんにしてもこれまでは成果物がなかったのだから、これはよかった。

栗田 横山は市から言われて嫌々ではなく、積極的に取り組んだ地域。一町内会で 700 人も防災訓練に集めるのはすごいが、秘訣は何か。

都築 新聞の販売店にお願いして、ポスターを入れた。回覧板には決められた数しか入らない。

栗田 マンションの近藤さんの感想は？

近藤 うちのマンション住民は小学生から 60 代まで 3 分の 2 が参加した。避難はしご、エレベーターの緊急電話など、使ったことがない設備を一度使えた。使い方がわかっただけでも良かったし、場所がわかったのも良かった。防災訓練の会場に消火器が置いてあるのではなく、普段からどこにあるか知っていることのほうが重要だと感じた。

マンションの場合、ドアを閉めてしまうと無事に避難したかどうかわからないから、張ってもらってマグネット式の避難 OK シールを作った。事前に、防災訓練のお願いにあげながら、当日参加のお願いを兼ねて、このシールを渡した。

実は、21 年も同じ訓練をやった。そのときマンションの扉にシールが貼ってあったのがうれしかった。

栗田 近藤さんのマンションは地域の仲が良いのでは？

近藤 そうですね。棟数が 45 で少ないこともあるが、少ないからどうしてもエレベーターで顔を合わせないと生活できない。マンションという近所づきあいが希薄と思われがちだが、うちは通路でしゃべったり、男の人もしゃべったり、私も見かけと違って怖がられることもない。

栗田 では、最終年度の今池町内会岡本会長。

岡本 今池町内会は年数がかなりたった高層マンションを多く抱え、町内会も高層マンションの防災訓練をやろうという話が出ていた。

コープ野村も共同でやろうと社協から声が上がっていた。

コープ野村さんとはほとんど交流がなかったのだから、今回を機に交流ができたのが良かった。

岩田 今池小学校区の事務的なことは岡本会長に全て頼んでいて、コープ野村としてはほとんど動かなかった。これで災害が起きたら、コープ野村だけで乗り切れるかという心配はあった。例えば、コープ野村は 800 世帯。4 人世帯としても 3,200 人。絶対避難できないでしょ。骨肉の争いになるでしょ。今池町の中にコープ野村がある以上、連携を取っていかなくちゃいけない。管理組合とも連絡を取らないといけない。今回はそれが実った。

栗田 3 地域それぞれの立場からお話頂いた。今後どう活動を継続していくかを聞きたい。箕輪にはレジャー農園という具体的な目標があるが、マンションパパの予定は？

岩井 三河安城はマンションばかり。町内会や防災に対しての認識が薄いから、町内会に入れていただいてご指導、交流が先じゃないかと考えている。

加藤 新しい公民館が 27 日に竣工式を迎える。広くて、地震が来ても倒れない建物。これからは公民館行事にどんどん参画して、一緒にやってほしい。我々は一切拒まない。できることなら、子供会などもそこでやってほしい。

栗田 場を通じていろんな交流が生まれる。ぜひ、これからのいい関係を続けてほしい。加藤会長は懐が広い。もともと地域とマンションと一緒に活動している横山町はどうか。

都築 世代交代は常に頭にある。世代交代と要援護者の方も含めて、手をさしのべられるような地域でありたい。

近藤 防災訓練終わってから 2 年近くたった。今は、何気なく阪神大震災で亡くなった方の経験とかを思い浮かべながら企画している。そういったことを次の子どもたちにつなげていかなくちゃいけない。阪神大震災から 15 年たち、記憶がほとんどない。

栗田 世代交代ということで、現会長の新家さんにも話を聞きたい。

新家（横山町内会現会長） 横山町の場合は厄年を終えた方が町内会に関わる。いろんな会議があるが、年配の方が仕切る一般的な町内会のイメージに反し、横山の場合は好きなことをやってと言われる。奇抜な発想を受け入れてくれる地域だから盛り上がりがある。

会計から副、副から会長になるが、はじめは役職なんてやめたらいいからと言われるが、みなが一生涯懸命やっているなかで「やめる」とは言えない。若いだけでは暴走することもあることがあるので、新旧のバランスが大事。

栗田 では、今池町内会。

岩田 訓練会場が小学校とマンションとばらばらで人の流れが固まっていた。体験するのも1、2だけという方がいて、やり残しがあったと思った。うちの役員のお母さんから、子どもたちに対してのスタンプラリーを展開したらよかったという声が出た。今後に生かしたい。

岡本 運動会をやると子どもが非常に集まる。子どもを集まる機会の、メニューの1つに防災訓練を入れたらいいという気がしている。運動会には500人以上、そうめん流しには700人以上集まる。ちょっと工夫すれば有意義な防災訓練ができる気がしている。

栗田 3地区のお話を聞くと、ばらばらだった地域にはつながりが生まれ、つながってきた地域はそれが深くなったと感じる。副市長によると、マンションは安城市内にまだまだある。そして、地震はかならずやってくる。この3地域の取り組みが広く伝わって、自分達もやってみようという地域が出てくることを祈る。パネリストの皆様、どうもありがとうございました。

○ 基調講演「さらに災害に強い地域をめざして」／福和伸夫氏（名古屋大学大学院教授）

今のパネルディスカッション、安城はやはりすごいなと思って聞いていた。素晴らしいが、僕の仕事はいやなことを言って落ち込ませて、活動させることなので、少し耳の痛いことを言うかもしれないが、聞いていただきたい。

3地区、3つのチームが登壇されたが、どのチームも地域の町内会代表は頭髪がすでにない、もしくは白髪。マンションの人たちはつましく下を向いているが、若い。10年たったら、マンションの方々が助ける側に回る。昔からお住まいの方の強さと新しい方の強さ。互いに補い合っている。1年活動して互いのよそよそしさはなくなってきた。

3地区での実践を聞いて、訓練が、心が通った訓練になっていると感じた。どこの地域も最終的に何らかの実践になっている。マンションにお住まいの方は、当初地域との接点がなかったが、地域を知ったり隣近所を知ったりすることに成功した。地域が好きになる人が増えてきたのでは。

人と人との交流が生まれ、次に連携。なかなかつながりにくいマンションと町内会の方々が一緒に活動ができるようになった。「井戸や田んぼや庭を貸せる」というスケール感の連携が大事だ。

改めて安城の消防力を見てみよう。消防自動車の数から、一度に消せるのは7か所、助けに来られる救急車は5台とわかる。

ここで、自分の備えができていないか改めて確かめてみよう。

- 良い場所に住んでいる
- 強い家に住んでいる
- 家具の転倒防止をしている
- ホイッスルを持っている
- 家族で171の練習をしたことがある
- 水と食料を備蓄している
- 非常用避難・発電設備がある
- 地震のお守りを持っている

東海・東南海地震のシナリオを考えると、当然消防は来ない。避難所に集まってくるのは、家が壊れてしまった地域の方と、マンションの方も来る。高層住民は生活ができなくて来る。マンションの設備は安全確認に時間がかかる。圧倒的に技術者や資器材が不足している。

安城市は素晴らしい。安城暮らしと耐震協議会を作り、自分達で克服できる力を持っている。

それに対し、一般的には国民全員がちゃんとモノを考えられなくなっている。自分達の目線で考えることができたのがこの事業であり、3年間の成果である。

一番失っているのは子どもたちの生きる力。次の世代に世代をつなげていくこと。次の世代に迷惑をかけない、そういう世代でありたい。このままいくと、あいつらのおかげで全部が終わったという世代になりかねない。

○ 挨拶／伊吹満喜男氏（安城市社会福祉協議会事務局長）

福和先生、本日参加して下さったパネリストの皆様感謝申し上げたい。おかげで大変良い成果報告会、およびこの3年間の事業であったように思う。自主防災組織の皆さまに置かれては、今後とも地域のために頑張っていたきたい。これで今日の成果報告会を締めくくる。





第3章 事業全体の振り返りと成果・今後の課題

平成21年度の安城市自主防災組織活性化事業、および3年間におよぶ本事業が終了した。

今年度は、安城市の中でも最大規模のマンションであるコープ野村とその周辺の今池町内会が対象となった。コープ野村は、一部の棟で入居開始からすでに25年以上経過しており、入居者がこれから本格的に高齢化を迎えるという状況にあった。今池町内には、他にも同様に築年数が経過したマンションが建っていた。

その事情を反映してか、防災訓練メニューには「実際に高齢者を逃がす訓練がしたい」、「老いた犬を避難させる訓練をしたい」など高齢の居住者に対応した訓練を望む意見が多く集まった。また、家具転倒防止作業に対する関心も高く、防災訓練時に開設された展示コーナーは多くの人でにぎわった。

大規模町内会のため、コープ野村と今池町内会はこれまでほとんど交流がなかったという。しかし、約800世帯が居住するコープ野村住民にとって、同じ避難所に向かうことになる今池町内会との交流は必然であった。新型インフルエンザの影響により、今年度核となるべきイベントの一つであった避難所体験が中止になったのは残念であるが、防災訓練と1年間の推進委員会を通じて町内会とマンション、およびこの地域の消防団今村分団や安城の防災ボランティア等が交流の場を持ったことは評価できるであろう。

また、秋以降各年度の代表者を集めて準備し、3月に開催された3カ年の成果報告会からの学びは大きい。3年間の代表者が一堂に集い意見を交わすことで、「マンションの規模や築年数、周辺の地域環境などによって、一口に防災と言っても、具体的課題が大きく異なるということが浮き彫りになった。若いマンションでは、住民の没交流による災害時の不安、成長期で活気ある壮年期の地域では町内会の肥大化、さらに築年数が経過したマンションでは高齢化に対応した課題が挙げられた。成果報告会の場によって、マンションの「先輩」、「後輩」どうしで知恵の学び合いができることが示された。

本事業では3年間を通じ防災訓練を映像の記録として残し、10分程度のダイジェスト版も作成している。今後、安城市内外の地域に、この訓練メニューや手法が周知され、多様な交流の場から災害に強い地域、災害に強いマンションが増えていくことを願ってやまない。

□2010年3月19日

□特定非営利活動法人レスキューストックヤード

461-0001 名古屋市東区泉 1-13-34 名建協 2F

TEL:052-253-7550 FAX:052-253-7552

Mail info@rsy-nagoya.com

Web <http://rsy-nagoya.com/>